

暮らしの広場



■乳がん編

〔4〕 工藤 明敏



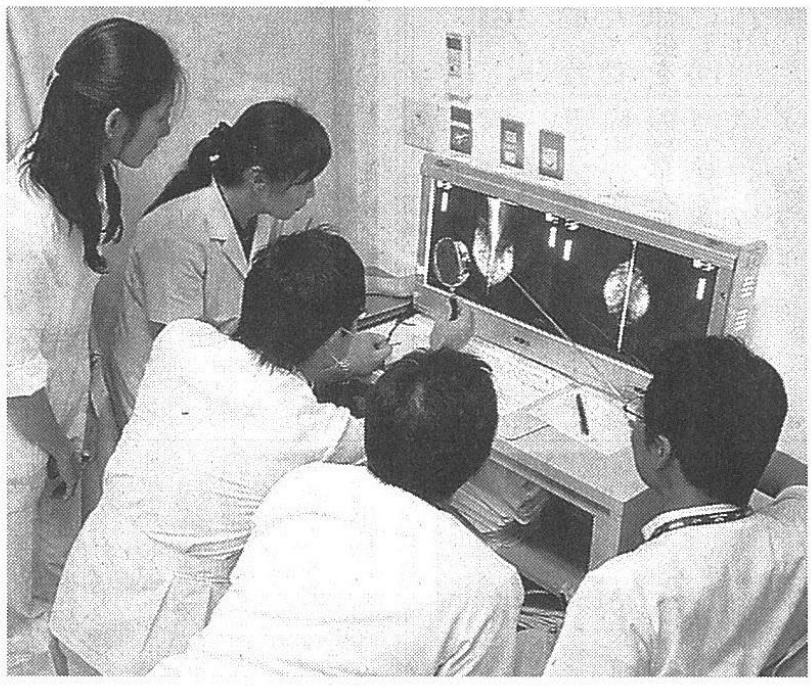
しこりと
して感じ
られる方
が多くい
らっしゃ
るのも事

乳がんの主な症状には次のものがあります。
乳房のしこり 1センチぐらいの大きさになるとしこりとして触れやすくなります。しかし、しこりのすべてが乳がんではありません。患者さんが触れる80%は良性との報告もあります。乳腺表面の凹凸を

症状と診断

触知できないがんを診る

実です。
乳房のくぼみ(えくぼ現象) 皮膚近くの乳がんは皮膚がくぼんだり赤く腫れたりします。くぼみはがんだけでなく炎症でも起こります。
乳汁分泌 乳汁の出る穴が1カ所ので血液のようであれば、精密検査が必要です。
脇の下のリンパ節 乳房のしこりより先に感じられることもあります。
乳がん診断の検査は次のように行われます。
しこりが乳がんかどうかの検査には、マンモグラフィーと超音波(エコー)をまず行います。
乳房超音波とは、乳房にゼリーをぬって超音波をあて腫瘍の性質をみる検査です。乳腺密度の濃い若い女性にも適しています。検診では、閉経前の女性にはエコーの方がマンモグラフィーより情報量が多いことがあります。
マンモグラフィーと超音波所見は5段階に分類しています。これをカテゴリー分類と



マンモグラフィーの読影

言い、正常をカテゴリー1、がんをカテゴリー5として診断しています。
検診結果でカテゴリー3と報告され、ドキドキした経験をお持ちの方がおられると思います。「おそらく良性と思われるが、悪性を否定できないため精密検査を受けてください」という意味です。結果が出るまで不安な毎日と思いますが、検査を受けたら安心です。
次に、そのしこりのがん細胞やがん組織の存在を証明する検査を行います。
細い注射針を刺して細胞を吸引する「穿刺吸引細胞診」、局所麻酔下に太い針を刺してしこりの一部組織を採取する「針生検」があります。最近では画像検査ですでにがんの疑いが強い場合、最初から針生検を行うて次に化学療法を行うことが多いです。
触知できない乳がんには以下のタイプがあります。①しこりが小さい②しこりが深部にある③厚い乳腺または皮下脂肪におおわれている④しこりを作らない。
乳がん検診にマンモグラフィーが導入され、微細石灰化で発見されるしこりを作らない非浸潤性乳管がんが増加しています。その症状経過は極めて良好で、もちろん発見時の自覚症状もほとんどありません。
微細石灰化 マンモグラフィーで白く小さな粒として表わされる。数、分布、形により良性の乳腺症(乳腺の加齢変化)や線維腺腫(思春期にできる腫瘍)のこともあれば乳がんの場合もある。
(阿知須共立病院診療部長、外科部長)